

# 「日本史研究推進委員会 夏季史跡巡検参加記」

—関東大震災から 100 年、近代横浜の歩みを複眼的に捉える—

逗子開成高校 林 晃之介

## はじめに

8月4日（金）、日本史研究推進委員会にて夏季県内史跡巡検が実施された。行程は JR 山手駅 9 時 30 分集合—①根岸外国人墓地—②中華義荘—昼食—③神奈川県立歴史博物館（展示解説・展示見学・質疑応答・地下バックヤード見学）17 時頃解散。午前中は、横浜翠嵐高校の矢野慎一先生の案内で横浜市内の外国人墓地を見学し、午後は県博展示の史跡見学を行った。参加者は 9 名であった。

## 各見学地の解説・所感

### ①根岸外国人墓地 [横浜市中区仲尾台 7-1]

1861（文久元）年に山手に設けられた横浜外国人墓地が手狭になったことから、新設された外国人墓地。本格的に使用され始めたのは横浜市に管理が委託された 1902（明治 35）年以降だとされる。第二次世界大戦後はアメリカ軍に接収されており、その際に記録類が消失したため正確なことはわかっていないが、墓地には 1,200 余名の外国人が埋葬されており、そのうち第二次世界大戦後、外国軍人・軍属と日本人女性との間に生まれた多くの嬰兒が埋葬されているという。墓地の敷地は斜面を利用した 3 段構造になっており、下段（D 区）にはすべての御霊の冥福を祈る為に 1999（平成 11）年に建立された慰霊碑や 1942（昭和 17）年に起きた横浜港ドイツ軍艦爆発事件での犠牲者の墓【写真】などがあり、上段（A 区）には 1926（昭和 2）年に横浜市が建立した関東大震災で犠牲となった外国人の慰霊碑がある。一方で上段には墓碑のない区画もあり、この地に眠る多くの嬰兒に思いをはせる見学であった。



### ②中華義荘 [横浜市中区大芝台 7]

続いて訪れた中華義荘は、1859（安政 6）年の神奈川開港以降、横浜に居住した華僑の人々の墓所である。開港当初は、華僑の人々も山手の横浜外国人墓地を使用していたが、中華街が形成されたことや、棺の処置方法の差異などから墓所を移転し、現在の場所に墓地がつけられた。華僑社会では、客死した者の遺骸を「柩船」で故国に帰葬する「落葉帰根」と呼ばれる生活原理があり、墓地は帰葬を待つ棺柩の仮埋葬の地であった。しかし関東大震災以降、運棺が行われなくなったため、それ以降中華義荘は華僑の永眠の場となっている。また同時期頃から火葬が行われるようになったという。山門をくぐると、正面に煉瓦造りの地藏王廟が目に入る。【写真】扁額には「光緒壬辰（=1892 年）」とあり、震災をくぐり抜けてきた明治中期、居留地時代の建築物



であることがわかる。正堂の地藏王菩薩坐像（脱活乾漆造）も廟創建と同時に造立されたものとされており、市の指定有形文化財である。そのさらに背後には、三階建ての安骨堂があり、一階部分には納骨ロッカーが並んでいた。そして、墓所最



奥には関東大震災で亡くなった華僑の人々のために、震災翌年に建立されたという「大震災遭難者之墓」碑や、この前後につくられた各同郷会や同業会による「大震災殉難先友記念碑」が建ち並んでおり、コミュニティーを大切にする華僑社会の文化がみられる。またこれ以外にも大震災で亡くなった個人の碑や連名の碑がある。

### ③神奈川県立歴史博物館 [横浜市中区南仲通5-60]

午後は神奈川県立歴史博物館へ移動し、武田周一郎学芸員から特別展「関東大震災一原点は100年前」についての企画意図や展示解説を伺い、展示見学を行った。関東大震災から100年にあたる年の特別展として、多くの人や物が失われた大災害であった一方で、復興の過程が現在の都市や地域の骨格形成につながったという観点から、震災を現代社会の「原点」の一つと捉えようとする視点や、震災から「100年」



をどう位置づけるのかという点に重きが置かれていることが印象的であった。中でも、足柄茶が関東大震災後の産業復興策を契機に生み出された特産品であったことを、今回筆者は初めて知った。その後丹治雄一学芸員の案内で、大震災当時火災から逃れた人々の避難場所となった地下バックヤード(旧横浜正金銀行本店本館地下)を見学させていただいた。現在も収蔵庫として使用されている旧金庫や廊下は、震災当時近隣の人々の命を守った「場」であり、震災の生き証人として、私たちに生々しく語りかけてくるものがあった。

### おわりに

関東大震災から100年の節目である今回の巡検では、震災犠牲者が眠るそれぞれ特徴の異なる二つの外国人墓地や特別展、地下バックヤードを見学した。そして、各所は近代横浜の歩みを様々な立場や角度から捉えることができ、地域の視点からも教材化が可能な充実した巡検内容であった。今回の史跡巡検をご準備頂いた横浜翠嵐高校の矢野慎一先生、鎌倉学園高校の風間洋先生に御礼申し上げます。

### 《参考文献》

- 田村泰治「もう一つの横浜外人墓地—市営根岸外国人墓地に関する考察」(『郷土神奈川』19号、1986年)
- 山崎洋子「戦後横浜 華やかな闇」(『有隣』第399号、2001年)
- 飯島渉編『華僑・華人史研究の現在』汲古書院、1999年
- 岸上興一郎『海港場横浜の民俗文化』岩田書院、2005年